

近 時 斷 片

○昔は土木工事が一切の工學の首班を占めてゐた様である、現在でも幾分か其傾向はあるが、然し其の進歩の程度に於ては寧ろ電氣工事の方が素晴らしいものである。

土木は範圍が廣く、且つ出發が古い丈けに新研究と努力の氣分が失せて來た様である。

○

○『土木と水理』と云ふ雑誌が最近に生れた既刊の『道路の改良』と相似た行き方で、同じく内務省系の雑誌である。創刊號の内容は能く整頓してをる。斯の如く頒發する多數の雑誌が各自の本領を發揮するに於ては斯道の進歩も益々大なるものがあると思はれる。

日本無線電信の送信塔工事

○地上 825尺の鐵塔が一個のボールベアリングの上に直立してをる。それは重量 300噸の支柱式無線電信塔で近頃愛知縣下に同一のもの 8 本を建設された東洋第一のものである。○僅か 5 尺の人間ではあるが、空中に延びるべき此の大工事を僅か 15 日間にまごめるに至つた事は施工の進歩も又目醒しいものである。○米國の高層建築に比すれば之も大した問題ではないが、日本の工事としては近頃傑作の一つである。其工事は本月を以て將に竣工するものである。

作久發電所工事の其後

○水力電氣の工事も昨今では大分眞面目なものが出来るが、まだまだ大に改良の餘地がある。之は監督者ばかりの問題でなく請負業者と俱に一般の工事關係者が工事に眞劍になるより外はない。

○總て經濟的な最後の勝利は合理的な眞劍さである、工事に成功するも此の外に道はない此の種の最も手近き參考として本號に三度び關東水力電氣會社の作久發電所工事の近況を報導する事とした。幼稚なる日本の工事界に於て作久發電所工事の施工振りを見る事は工事界の一種の強味である。

建設局の工事に關する會合

○工事研究の爲めの有益な會議が鐵道省建設局で開催された、從來から建設局では隧道會議橋梁會議其他の催があつて、夫々の實地工事の擔任者が實際の研究を發表し討議しつゝあつたが、今回ののは部分的にまごまりの出來た會議である。

○此の會議で特に注意すべきは初めて測量會議と混凝土會議なるものを開催された事である。コンクリート會議に於ては混凝土に關する合理的な施工法が愈々示方書となつて實行に入らんとする事である。尙ほコンクリート供試體製作標準、スランプレストやファイネスモデュラス等の知識を實地に普及する事に努めらるゝは此種の會合としての一段の進歩である。

○而して民間業者が此の會合に参加して幾分でも合理的施工法の印象を得たる事は喜ばしい事である、然し乍ら斯る會合は兎角形式的なものとなり勝であるが、一回や二回の會合で直に效果の現はれるものではないから、主催者は實際の效果を擧げるべく今後益々適切なる獎勵方法を講ぜられ度い。

尙ほ測量會議の日程は次の如し。

第一日(六月二十六日)は測量會議にして先づ中村局長訓示、池田計畫課長挨拶、遠藤事務官の測量の土地立入に就て、磯崎技手のアリダートスタジャに就て、野中技手の地形測量に就て、其他打合せ事項に

- 1、測量機械の改良に就て
- 2、地形其の他の測量を最も經濟的に迅速に行ふ方法

第二日(六月二十七日)は加藤技師の選定線路比較に關する經濟調査に就て、柴田善次氏の横斷面測量に就て、岡林技師の測量と地質に就て、其他に打合あり

第三日(六月二十八日)は渡邊技師の線路選定に必要な地質の知識、尙ほ第四日、第五日は横須賀其他の斷層地質見學をなした。